

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                             |           |    |
|----------------|-----------------------------|-----------|----|
| ○事業所名          | Kids Tech 玉江橋               |           |    |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年 5月 19日 ～ 2025年 6月 20日 |           |    |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                      | 58 (回答者数) | 20 |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年 6月 10日 ～ 2025年 6月 17日 |           |    |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                      | 3 (回答者数)  | 3  |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 6月 25日                |           |    |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること               | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                                            | さらに充実を図るための取組等                                                                                                            |
|---|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 特性に応じたIT(プログラミング)療育                                      | 児童のニーズや発達段階に応じ、将来に向けたパソコンのスキル向上を目指している。スキルを身に着け「できた」から「できる！」の自信へつながるような支援を行っている。得意なものを見つけ伸ばしていけるようなカリキュラムを提供している | 提供内容については、ゲーム性のあるものを使用し楽しんで活動をしているうちに身に付けてもらえるような工夫をしている。また特性に応じた取り組み方法をスタッフで検討しながらスモールステップで取り組めるよう促している                  |
| 2 | 児童が楽しく安心して通える環境づくり。わかりにくいものやあいまいなものはさけ、わかりやすく視覚化重視のレイアウト | 教室内の提示物や説明をするものなどは、あいまいな表現をせず、視覚化しわかりやすい表現をするように工夫している。また余計なものは提示しないようにし、集中力を高められるような環境を作っている                    | 見通しをつけられるよう最初に流れの説明を行い、なにをしたらいいかと不安にならないよう、スタッフが細かな声掛けを行い取り組んでいただいている。また切り替えなど難しい場合もあるため、切り替えやすいよう時間を視覚化したり声掛けを行っている      |
| 3 | コミュニケーションスキルの向上                                          | 1人1台のPCを使用できる環境を整えているが、あえてパソコンを使用しない時間を作り、コミュニケーションスキルの向上を目標に、シンプルなアナログゲームなどを通して少しずつ輪の中に入って話せるような取り組みを行っている      | SSTでは、日常の困りごとなどをテーマにし、ゲームやクイズ形式にして自分だったらどうするか考えてもらいながら取り組んでいただいている。コミュニケーションではまずはスタッフと会話のキャッチボールができ、会話することが楽しめるように工夫している。 |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                         | 事業所として考えている課題の要因等                                    | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                 |
|---|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 学校などの他機関との連携                                                       | 現在、特定の児童については積極的に連携を図っているが、他の児童については必要な場合しか行えていない。   | 進路を決めるような重要なタイミングでは頻度高く情報交換が必要となるため、日頃からの情報を整理し、連携を図っていく必要がある                        |
| 2 | 現在、利用者の年齢層が高年齢に偏っているので、新規で入られる小学生には、馴染みづらいところがある。またなかなかご利用いただけない状況 | 長期的にご利用される児童が多く、新しい児童の受け入れが単発でのご利用になってしまうことが原因と思われる。 | 入られたら早めに馴染めるように、簡単な療育的な遊びでコミュニケーションを取りやすくなるような支援を行う。またスポット利用など日程調整を行い受け入れやすい体制を整えていく |
| 3 |                                                                    |                                                      |                                                                                      |